広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業

＜圏域内の市町が抱える地域課題や大学・高校等に期待する取組＞

区分	テーマ	地域課題の概要
③交流・移住・定住の促進	多文化共生のまちづくりの推進	・外国人住民も地域社会の一員として活躍できるような環境づくりを推進していく必要があるが、外国人住民が地域と関わりを持つ機会が少ない。

市町名	大学・高校等に期待する取組
三次市	外国人住民の方が生活されている中で、多国籍の外国人住民が集える場、困りごとを話せる場、地域住民との交流の場が少ないため、これらの課題に対する方策を検討していただきたい。
東広島市	外国人市民数は令和7年1月末時点9,472人で、総人口に対する割合が高く、また110を超える国や地域から来日した外国人が暮らしている。しかしながら、増加する外国人への多言語対応や人材確保に苦慮している状況である。また、地域とのつながりが希薄な外国人が多い中で、どのような取組を行えば、地域・外国人双方がつながりやすくなるのかについても課題がある。これらの課題に対する方策を研究、検討していただきたい。
安芸高田市	外国人市民の日本語学習支援並びに、本国で教育を受けた外国人の子どもに対する学習支援（学校授業対策、受験対策）が課題となっている。 学習の必要がある外国人市民への日本語学習支援及び学校の授業対策、受験対策を定期的に行っていただくなど実証実験を行い、効果的な方策を提案していただきたい。
江田島市	外国人の日本語教室の運営に関して、新たな在留資格の本格稼働を見据え、今後、特定活動１号（現在２９７人）から特定活動２号に移行した場合、日本での家族の帯同、生活が可能となる。そのため、日本語教室に参加する外国人市民、とりわけ児童・生徒（現在約５０人）の大幅な増加が見込まれるものの、社会資源、人的資源の乏しい本市では、圧倒的なスタッフ不足になると考えられる。来日して日本で暮らしていく外国人市民との多文化共生、とりわけ地域での「顔」と「顔」の見える関係性構築を進めていくために、圧倒的な人的不足という課題について、本市の現状を踏まえて、解決方法を検討していただきたい。
海田町	本町では、国際交流協会が「多文化共生」に関する事業を実施し、外国人住民が地域と関わりを持つ機会の創出を担っているものの、コロナ禍の影響による人と人との関わりの希薄化等により、実施事業への参加者数減少など盛り上がりに欠ける現状が続いている。 外国人住民と地域が気軽に関わることのできる機会、環境づくりに向けたアイデアをいただきたい。
坂町	人口減少による人手不足等に伴う外国人労働者の受入れが増えるなど、外国人人口は増加していくことが見込まれる。外国人住民が孤立することのない地域づくりをするための施策について検討していただきたい。
北広島町	人口減少に歯止めがかけられない中、外国人は貴重な働き手である。人材確保といった面だけに終わらず、多様な生き方、考え方などを知り、認め合う中で誰もが住みやすいまちとなるのではないかと感じる。外国人、地域住民、企業などの現状把握、課題の抽出、また、交流機会の創出方法などについて知恵をいただきたい。
世羅町	技能実習制度の見直しによる、行政の取組を提案していただきたい。
岩国市	外国人住民の人口が増加傾向にあり、多国籍化も進んでいる状況で、円滑なコミュニケーションができ、安心して暮らせる多文化共生が実現した地域づくりは急務である。外国人住民が地域と関わりを持つ方法などについて検討していただきたい。
周防大島町	外国人の方と共生した住みよいまちづくりを進めるための施策を検討していただきたい。

市町名	大学・高校等に期待する取組
上関町	中学生の海外研修の実施や歴史的に関係の深い朝鮮通信使関連地、関係団体との交流等を行っており、地域に根差した国際交流の推進をしている。 今後も外国人との交流の機会が増えることが見込まれるため、多文化共生のまちづくりを進めるための方策を検討していただきたい。
田布施町	当町は、町内在住の外国籍の方の割合が低いため、町民と外国籍の方が交流する機会が少なく、学校の授業等での関わりが中心となっている。学校の授業等の関わりだけでなく、多くの町民が多国籍の方と関わることができる取組を検討していただきたい。
浜田市	外国人住人が地域活動やイベントに参加しやすくなる取組を検討していただきたい。
出雲市	外国人住民が増加傾向にある中、言葉の壁、制度の壁、心の壁をいかに取り除いていくのか考えていかないといけない。特に、言葉の壁は教育、医療、仕事、交流などに直結する課題であるが、日本語指導が進んでいない状況である。 日本語を学べる環境の提供、日本人との交流促進、日本人への意識啓発など、外国人住民と日本人がお互いを認めあうことができる取組を提案いただきたい。
飯南町	年齢、性別、障害、国籍の違いにかかわらず、誰もが住みやすい多文化共生のまちづくりを進めていくために地域住民の理解促進につながる方法を検討していただきたい。
邑南町	移住者や障がい者、外国人への理解が十分ではないと考える。福祉施設や工場の従業員として外国人を受け入れているが、誰もが住みやすいまちづくりをしていくために相互理解が必要だと考える。 外国人等と町民との交流に繋げるため、町内の外国人サークルについて町民向けのPRを検討していただきたい。